

教科等研究会（中学校社会科部会） 令和2年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

民主主義の担い手に必要な資質・能力を育む社会科の探求
～社会科的な見方・考え方を働かせる「問い」を通して～

2 研究経過

第1回 【指導案検討会】			第2回 【授業研究会】		
期日	人数	会場	期日	人数	会場
7月8日	23名	木山中学校	11月16日	20名	木山中学校

3 研究の概要

(1) 研究の内容

今年度は、11月開催の熊本県中学校社会科教育研究大会上益城・阿蘇大会に向けて地理的分野及び歴史的分野の授業づくりに取り組んだ。研究テーマ「民主主義の担い手に必要な資質・能力を育成する社会科～社会科的な見方・考え方を働かせる「問い」を通して～」は、新学習指導要領全面実施に向けて設定された県大会研究主題をもとにしている。

新学習指導要領が求める、社会科において育むべき資質・能力を「他者の存在や多様性を前提として、社会問題の解決に向かう態度および公正に判断する力」と捉えて研究を進めた。また、研究テーマの「問い」については「問い」をもつ主体は生徒であり、課題を設定する場面や課題を追究する過程で生徒たちから出てくるものとした。その生徒たちの「問い」を引き出すために、教師がどのような発問をすれば良いのかについて研究を深めた。

第1回では、地理的分野と歴史的分野に分かれて指導案検討会を行った。地理的分野では益城中学校 志水英介教諭が「身近な地域の調査」について、歴史的分野では嘉島中学校 中村俊介教諭が「明治維新」についての授業を提案した。授業者の考えを聞き、会員からも建設的な意見が出し合われた。さらに、県事務局より両分野の研究部長を招き、助言をいただいたことで、授業の方向性が定まっていた。

第2回では、県大会の公開授業と同じ内容を他クラスで取り扱った授業の録画映像を参観し、授業研究会を行った。生徒のつぶやきや意見などから生徒の新たな問いを読み取り、教師の発問の仕方をさらに考え直すなど、本番を見据えた意見を出し合うことができた。



(2) 成果と課題（○成果 ●課題）

- 県大会開催に向けて、昨年度から計画を立て、理論研修や前回大会の視察等ができたことで、今年度の第1回から指導案検討会を始めることができた。
- 県事務局から両分野の研究部長を招いたことで、県中学校教育研究会社会科部会としての方針や考え方について、意見をもらいながら、研究会を進めることができた。
- 県大会はタブレットで授業の様子を写し、それを研修会場に送る形で研究授業を行うこととなったが、第2回の授業も同様に録画をしたため、どのような構図で映像を撮影すればよいかといった運営に関する内容についても検討することができた。
- 県大会開催に向けて、自主的に指導案検討会を開催するなどしたが、人数制限を考慮しなければならず、思うように研究が進められない面もあった。部会の開催については、今後 Zoom の活用なども含めて、開催方法を検討しておかねばならない。

4 実践事例

(1) 授業の概要

①地理的分野 益城中学校2年4組「身近な地域の調査」

本単元で益城町内を走る循環バスに着目して、「ずっと住みたい町」となるために、どのようなバスが走ると良いか、益城町が実際に協議している内容に取り組んだ。本単元の学びが、町民の一人としてよりよい地域社会の形成に参画する態度を育成していくことを可能にすると考えた。

○主体的に学ぶための工夫

益城町の現状や課題から、「ずっと住みたい町となるためにどのようなバスが走ると良いのか」を構想させた。また、地域公共交通計画の作成担当者をGTとして招き、単元のはじめと構想した路線を発表する場面の2回、来ていただいた。



○地理的な見方・考え方を働かせる資料提示の工夫

住民アンケートの結果や異なる情報の描かれた地図を複数用意するなど、生徒たちの地理的な見方・考え方を働かせることに役立つ資料を精選して提示した。



○学びを深めるための学習活動の工夫

議論の場面として2つの場面を設定した。グループでの議論では、路線の構想のための議論を、クラス全体の議論では、1つに決めるという合意形成につなげる議論を行った。また、構想した路線図を発表し、異なる考えを持つ者どうしが議論をする本時の授業では、評価の工夫を行うことで、より学習が深まると考えた。本時では、考えた構想を授業者が評価するのみではなく、各班が提案した構想のどれが良かったのかを理由とともに記述させ、生徒にも評価をさせた。



②歴史的分野 嘉島中学校2年3組「明治維新」

江戸末期から明治期の日本の変化を多面的・多角的に考察できるよう、欧米諸国の近代革命から明治維新の進展、大日本帝国憲法の制定までを一つの単元として学習を構想した。このようにすることで、欧米諸国の進出がもたらした日本の変化という当時の因果関係を時期や推移に着目しながら学習することができ、それぞれの類似点や差異を明らかにすることで、生徒の「問い」が生まれる授業づくりにつながると考えた。

○単元計画の工夫

2つの中単元を1つの単元として単元計画を立て、欧米と日本それぞれの近代化を比較するために、導入の欧米の近代革命について「主権」「議会」「人権」の3つの視点でまとめ、単元終末の大日本帝国憲法の制定についても同じ視点で議論するようにした。



○主体的に学ぶための工夫

江戸幕府の滅亡から明治維新の学習に入る直前に、自分たちだったら、当時の日本をどのような国にしていくかについて議論した。単元前半で獲得した欧米の近代革命における「主権」「議会」「人権」という国づくりの視点や、江戸末期の日本が抱えていた課題など、これまで学習したことを根拠として、明治の国づくりについて主権者の立場で主体的に学習に取り組むことができた。また、単元の流れを常に振り返ることができるよう、教室壁面に授業で使った資料や学びなどを掲示した。



○本時の学習活動の工夫

本時では、「適していた」「適していなかった」という2つの立場に分かれ議論した。個人学習では、前時までの資料を根拠にして自分の意見を考えた。班学習では、個人の意見を班で集約し、主張点と根拠を明確にして一斉学習で発言できるよう促した。一斉学習では、どちらの主張もこれまでの学習を根拠としたものが出された。



(2) 学習構想案

①地理的分野（展開部分のみ抜粋）

5 本時の学習

(1) 本時の目標

益城町のバスの運行の在り方を，地域の結びつきや地域の変容，持続可能性などに着目し，課題の解決に向けて，意見交換を行いながら多面的・多角的に構想することができる。

(2) 本時の展開

過程	時間	主な学習活動	学習形態	○教師の指導 ・予想される生徒の反応や新たな問い	教材資料等	
導入	5分	1 学習の振り返りを行い，本時の学習内容を確認する。	一斉	○前時の学習を振り返り，益城町の発展のためのバス運行の課題について確認させる。	プレゼン資料	
		学習課題：益城町にどんなバスが走れば「住み続けたい町」になるか考えよう。				
展開	5分	中心発問：循環バス路線をどうつくれば益城町の課題解決につながるのだろうか。				プレゼン資料
		2 どのような路線が考えられるか資料をもとに考える。	個人班	○資料を参考に，多面的・多角的に考えさせ，ワークシートに循環バス運行の将来像について構想させる。 ・誰がどんな目的で利用するのか。 ・狭い道はどうするのか。 ・いつ走らせるのか。	地図 ワークシート	
	20分	3 相互の意見交換を行う。	班	○自慢できる考えを発表し，意見交換を行わせる。	ワークシート	
展開	10分	4 他の意見も参考にして再度，どの路線が良いか考える。	個人一斉	○はじめの自分の意見と，他者の意見とを比較し改めて自分の意見を考えさせる。 ○良いと思った路線に名札をはらせる。 ・どの考えが益城町の人に最も受け入れられるだろうか。 ○意見の変容があった生徒，なかった生徒に考えを発表させる。	ワークシート	
	5分	5 GT の話を聞く。	一斉	○自分たちの考えと比較しながら，疑問の解決につながるヒントがないか考えながら話を聞くように促す。		
まとめ	5分	6 本時を振り返り，次時につながる問いを投げかける。	個人一斉	○学習を振り返り，実現するために益城町に必要なことを問い，IC と空港に触れ，次の学習への意欲を持たせる。	ワークシート	

(3) 本時の評価

場面	評価基準
評価	A：益城町のバス運行の在り方を，地域の結びつきや地域の変容，持続可能性などに着目し，多面的・多角的に考察，構想，表現している。 B：益城町のバス運行の在り方を，地域の結びつきや地域の変容に着目し，多面的・多角的に構想している。

②歴史的分野（展開部分のみ抜粋）

5 本時の学習

(1) 本時の目標

2年3組国づくり草案と明治政府が目指した国づくりを比較することで、両者の違いに気づき、大日本帝国憲法制定の意図について考えることができる。

(2) 本時の展開

過程	時間	主な学習活動	学習形態	○教師の支援 ・予想される生徒の反応や新たな問い	教材 資料等
導 入	5分	1 前時までの学習を振り返る。 2 2年3組国づくり草案と大日本帝国憲法を比較し、その違いに気づく。	一斉 一斉	・前時の振り返りを、担当生徒が行う。 ○大日本帝国憲法と2年3組国づくり草案を比較し、「主権」「議会」「人権」の違いに気づく。 【主権】 ・国民と考えていたが天皇とされている。 【議会】 ・国民の代表だが、意見が反映されるとは言いがたい。 【人権】 ・自由についてはある程度保障されているようだが、国民の求めた自由とは違う。	掲示資料 ワークシート
		学習課題：大日本帝国憲法は、はたして当時の日本に適した憲法だったのか			
展 開	25分 15分	中心発問：大日本帝国憲法は、当時の日本に適した憲法だったのか。これまでの学習を振り返って考えよう。 3 欧米の進出や明治の国づくりなど、これまでの学習を振り返る。 4 個人で資料を見ながら考える。 5 主張が同じ生徒同士で班をつくり、それぞれの主張点について深める。 6 全体で意見を出し合い、討論することを通して、考えをさらに深める。	一斉 個人 班 一斉	○これまで学習した資料を振り返りながら、本時の発問について考えをもつことができるよう、資料を提示する。 ○自分の主張を決め、根拠を明確にしなが発表できるよう机間指導中に助言する。 【適している】 ・(主権) 国民に主権を与えると、国づくりに時間がかかるから。 ・(議会) 天皇主権のもと、政府主導で国づくりを進めた方が、早く近代化政策を進めることができるから。 ・(人権) 植民地にならないためには、早急に強い国を目指す必要があり、自由などの人権を制限なしに認める余裕がなかったから。 【適していない】 ・(主権) 欧米諸国は、国民が主権をもつことで成長を遂げていたから、日本もそういった国をモデルにすべきだと思う。 ・(議会) 1.1%の有権者では、国民の意見が反映されているとは言えないのではないか。 ・(人権) 当時の人々が求めていた自由や平等などの権利が認められたと言えない。 ○当時の時代背景を振り返ることで、なぜ当時の日本が大日本帝国憲法のもとでの国づくりを選択したのか考えることができるようにする。	ワークシート 掲示資料 配付資料
		本時のまとめ 当時、欧米の侵略から国を守るためには、強い国づくりを早く実現することが必要だった。そのために天皇が国民をまとめ、国づくりが行える大日本帝国憲法は、当時の日本に適した内容だったと言える。			
ま と め	5分	7 本時の学習を振り返る。	個人	○本時の学習を振り返り、「政府」「国民」の立場を意識して書くことを促す。 ・本時の振り返りを数名発表する。	

(3) 本時の評価

場面	評価基準
評 価	A：大日本帝国憲法の制定の意図について、資料をもとに当時の時代背景と人々の思いを踏まえて、自らの考えを表現している。 B：大日本帝国憲法の制定の意図について、資料をもとに当時の時代背景、または人々の思いを踏まえて、自らの考えを表現している。

